

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造と機能を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格筋の神経支配について説明することができる。 ・脊髄レベルの調節について説明することができる。 ・脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質による調節について説明することができる。 ・錐体路と錐体外路について説明することができる。 ・発声と言語について説明することができる。 ・体性感覚と内臓感覚について説明することができる。 ・痛覚の特徴について説明することができる。 ・特殊感覚（視覚、味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚）について説明することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。 ・図を模写することで理解が深まるので積極的にスケッチを行ってください。

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅱ-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造と機能を学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢、下肢、頭頸部の動脈・静脈・リンパの流れを説明することができる。 ・ 頭蓋底と顔面頭蓋を構成する骨を挙げ、穴の名称と通るものについて説明することができる。 ・ 各頭蓋骨と関節の特徴について説明することができる。 ・ 表情筋の名称と働き、咀嚼筋の名称、起始、停止、働き、支配神経を挙げることができる。 ・ 頸部の筋の名称と起始、停止、働き、支配神経を説明することができる。 ・ 頸部の運動と局所解剖について説明することができる。 ・ 脳神経の名称を挙げ、特徴と走行について説明することができる。 ・ 頭部の皮神経と頸神経を挙げ、特徴を説明することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。 ・ 図を模写することで理解が深まるので積極的にスケッチを行ってください。

【科目】 臨床医学Ⅰ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	あはき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸、あん摩、マッサージ、指圧の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の病態を理解することができる。 ・血液・造血器疾患を理解することができる。 ・感染症を理解することができる。 ・呼吸器疾患を理解することができる。 ・消化器疾患を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学 I 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13	【循環器疾患1】	心不全の病態	講義
	14	【循環器疾患2】	心臓弁膜疾患	講義
	15	【循環器疾患3】	不整脈、先天性心疾患、動脈硬化、大動脈瘤、大動脈解離	講義
	16	【循環器疾患4】	虚血性心疾患の分類と病態	講義
	17	【血液・造血器疾患1】	鉄欠乏性、巨赤芽球性、溶血性および再生不良性貧血	講義
	18	【血液・造血器疾患2】	白血病、悪性リンパ腫	講義
	19	【感染症】	感染症の総論、細菌感染症、ウイルス感染症、および性感染症（STD）	講義
	20	【呼吸器疾患1】	呼吸器の感染性疾患	講義
	21	【呼吸器疾患2】	閉塞性呼吸器疾患	講義
	22	【呼吸器疾患3】	拘束性呼吸器疾患	講義
	23	試験		試験
24	試験の解説	試験内容のフィードバック	講義	
3期	25	【呼吸器疾患4】	肺癌、気管支拡張症	講義
	26	【消化器疾患1】	口腔疾患、食道疾患	講義
	27	【消化器疾患2】	胃・十二指腸疾患	講義
	28	【消化器疾患3】	腸の炎症性疾患、機能性疾患	講義
	29	【消化器疾患4】	大腸癌、腸閉塞および腹膜炎	講義
	30	【消化器疾患5】	ウイルス性肝炎の分類と特徴	講義
	31	【消化器疾患6】	アルコール性肝障害、肝硬変および肝癌	講義
	32	【消化器疾患7】	胆・胆道疾患	講義
	33	【消化器疾患8】	脾疾患	講義
	34	履修内容の総括		講義
	35	試験		試験
	36	試験の解説	試験内容のフィードバック	講義

【科目】 臨床医学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	はき臨床でも遭遇する疾患のはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腎・泌尿器疾患の病態について理解することができる。 ・ 内分泌疾患の病態を理解することができる。 ・ 代謝・栄養疾患の病態を理解することができる。 ・ 免疫異常・膠原病の病態を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	医療情報科学研究所/編集. 病気がみえるVol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第4版, Vol.6 免疫・膠原病・感染症, Vol.8 腎・泌尿器, メディックメディア, 東京
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅱ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態	
1期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
2期	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23				
	24				
3期	25	【腎・泌尿器疾患1】	急性・慢性糸球体疾患 およびネフローゼ症候群	講義	
	26	【腎・泌尿器疾患2】	急性・慢性腎不全 腎・泌尿器疾患、腎・泌尿器腫瘍	講義	
	27	【腎・泌尿器疾患3】 【内分泌疾患1】	腎・尿路結石、前立腺疾患、 下垂体前葉疾患	講義	
	28	【内分泌疾患2】	下垂体後葉疾患、甲状腺疾患	講義	
	29	【内分泌疾患3】	副腎疾患	講義	
	30	【代謝・栄養疾患1】	糖尿病	講義	
	31	【代謝・栄養疾患2】	脂質異常症、肥満とメタボリック シンドローム、高尿酸血症	講義	
	32	【免疫異常・膠原病1】	膠原病の概略、関節リウマチ	講義	
	33	【免疫異常・膠原病2】	全身性エリテマトーデス、全身性強皮症 ベーチェット病	講義	
	34	【免疫異常・膠原病3】	多発性筋炎/皮膚筋炎 アレルギー疾患	講義	
	35	試験			試験
	36	試験の解説	試験内容のフィードバック		講義

【科目】 臨床医学Ⅲ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	はき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科疾患について理解することができる。 ・ 神経疾患について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	医療情報科学研究所/編集. 病気がみえるVol.7 脳・神経, Vol.11 整形外科, メディックメディア, 東京
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅲ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13	【運動器疾患1】	関節疾患（関節炎・可動域の異常、五十肩）	講義
	14	【運動器疾患2】	関節疾患（変形性関節症）	講義
	15	【運動器疾患3】	骨代謝性疾患（骨粗鬆症、くる病・骨軟化症）	講義
	16	【運動器疾患4】	骨腫瘍（転移性骨腫瘍・骨肉腫・骨軟骨腫）	講義
	17	【運動器疾患5】	筋・腱疾患（狭窄性腱鞘炎：ばね指・ドケルバン病）	講義
	18	【運動器疾患6】	形態異常（発育性股関節形成不全、斜頸、側弯症、外反母趾、内反足）外傷（骨折、脱臼、捻挫）	講義
	19	【神経・筋疾患1】	脳血管疾患（虚血性病変：脳梗塞：脳血栓・脳塞栓・一過性脳虚血発作）	講義
	20	【神経・筋疾患2】	脳血管疾患（出血性病変：脳出血・くも膜下出血・慢性硬膜下血腫）	講義
21	【神経・筋疾患3】	感染性疾患（髄膜炎：ウイルス性・細菌性・結核性・真菌性 神経梅毒・ポリオ・プリオン病） 脳腫瘍（神経膠腫・髄膜腫・下垂体腺腫・神経鞘腫・転移性脳腫瘍・脊髄腫瘍）	講義	
22	【神経・筋疾患4】	変性疾患（基底核疾患：パーキンソン病・ハンチントン舞踏病・脳性小児麻痺・ウイルソン病・その他） 認知症性疾患（認知症：アルツハイマー型・脳血管型・ピック病・前頭側頭型認知症・多系統萎縮症・軽度認知症）	講義	
23	試験			試験
24	試験解説	試験内容のフィードバック		講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【科目】 臨床医学Ⅳ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	はき臨床でも遭遇する疾患のあはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。
授業の一般目標 (G10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を習得する。 2. 鍼灸の不適応疾患の特徴や必要な知識を理解して、適応疾患との鑑別能力を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般外科の疾患について理解することができる。 ・ 麻酔科について理解することができる。 ・ 婦人科疾患について理解することができる。 ・ 皮膚科疾患について理解することができる。 ・ 眼科疾患について理解することができる。 ・ 耳鼻科疾患について理解することができる。 ・ 精神科疾患について理解することができる。 ・ 心療内科について理解することができる。 ・ 小児科疾患について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	予習課題を出すことがあり、課題の提出を成績に加味する。
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅳ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	【神経・筋疾患 5】	筋疾患（重症筋無力症・筋ジストロフィー） 運動ニューロン疾患（筋委縮性側索硬化症）	講義
	26	【神経・筋疾患 6】	末梢神経疾患（ギランバレー症候群・多発ニューロパチー）絞扼性ニューロパチー：橈骨神経麻痺・正中神経麻痺・尺骨神経麻痺・総腓骨神経麻痺・脛骨神経麻痺・ベル麻痺・ラムゼイハント症候群・眼瞼けいれん・片側顔面けいれん・てんかん）	講義
	27	【神経・筋疾患 7】	神経痛（三叉神経痛・肋間神経痛・坐骨神経痛・後頭神経痛）機能性疾患（緊張性頭痛・片頭痛・群発頭痛）	講義
	28	【婦人科疾患】	子宮頸癌・子宮体癌・乳癌・更年期障害・月経異常・乳腺炎・乳腺症・子宮内膜症・子宮筋腫・月経前症候群）	講義
	29	【皮膚科疾患】	接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹・円形脱毛症・膿瘍）	講義
	30	【眼科疾患】	結膜炎・角膜炎・麦粒腫・白内障・緑内障・眼精疲労・ブドウ膜炎・ドライアイ・飛蚊症・加齢黄斑変性症・糖尿病性網膜症・網膜剥離）	講義
	31	【耳鼻科疾患】	メニエル病・中耳炎・特発性難聴・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎・良性発作性頭位めまい症・前庭神経炎・耳管機能不全）	講義
	32	【精神科疾患 1】	神経症・統合失調症・うつ病・双極性障害・アルコール依存症・パニック障害・全般性不安障害・社会不安障害）	講義
	33	【精神科疾患 2】	心身症・神経性食欲不振症・神経性過食症・むずむず脚症候群・せん妄・自閉症スペクトラム症・注意欠陥多動性障害・心的外傷後ストレス障害）	講義
	34	【小児科疾患】	小児神経症・小児夜尿症・夜驚症・肘内障	講義
35	試験			試験
36	試験の解説	試験内容のフィードバック		試験

【科目】 病理学

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	病理学とは、生体に起こる病的な状態、すなわち疾病の本態を解明する学問である。疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の五つの病変カテゴリーに分類されるが、それらの病変カテゴリーを学び、疾病を起こす原因、それぞれの疾病で生じる変化、その経過、疾病がたどる転帰を総合的にとらえるように学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	疾病の全体像、すなわち原因、経過、治療法、予後、および結末を総合的に理解するために、疾病における形態と機能の変化、および本態を学習する。 疾病の原因と、それにもなう細胞・組織の変化に関する知識を習得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・病理学の定義を理解することができる。 ・病因について理解することができる。 ・循環障害について理解することができる。 ・退行性、進行性病変について理解することができる。 ・炎症を理解することができる。 ・免疫系の機能と免疫異常について理解することができる。 ・腫瘍について理解することができる。 ・先天異常について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	病理学概論
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	授業プリントを基に復習をすること
履修にあたっての留意点	臨床医学各論、衛生学と関連する項目があるので、教科書で確認すること。

【授業計画】 病理学 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	病理学の意義・病因論(内因)	病理学の定義	講義
	2	病因論(内因)	内因(免疫・遺伝に関しては2期)	講義
	3	病因論(外因)	栄養、物理学的、化学的外因	講義
	4	病因論(外因)	生物学的外因	講義
	5	循環障害	充血・うっ血、貧血・虚血、出血	講義
	6	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、水腫、脱水、ショック	講義
	7	退行性病変	萎縮、代謝障害	講義
	8	退行性病変	壊死、老化、死	講義
	9	進行性病変	肥大・増殖、再生、化生、移植	講義
	10	進行性病変	創傷治癒、異物の処理	講義
	11	試験		試験
	12	解説とまとめ	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	炎症	急性炎症の経過	講義
	14	炎症	慢性炎症の分類、特異性炎	講義
	15	免疫とアレルギー	免疫の仕組み	講義
	16	免疫とアレルギー	アレルギー、自己免疫疾患	講義
	17	腫瘍	腫瘍の定義と特徴	講義
	18	腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍	講義
	19	腫瘍	腫瘍発生の諸段階、病期分類	講義
	20	腫瘍	腫瘍の発生原因と治療	講義
	21	先天異常	遺伝、代謝異常・遺伝子の異常	講義
	22	先天異常	染色体の異常、奇形	講義
	23	試験		試験
	24	解説とまとめ	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進

【科目】 診療の基本-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	松峰 理真	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	診察から治療までの過程に必要な病気と症状を捉える医学的知識、かつ正しい所見を得るための正確な検査技能を概説する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患の症状や経過、および他の疾病との鑑別を学習する。 ・ 鍼灸臨床における病態把握、適不適応疾患の鑑別を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診察の方法を理解することができる。 ・ バイタルサインを理解することができる。 ・ 全身の診察を理解することができる。 ・ 神経系の診察を理解することができる。 ・ 運動機能検査を理解することができる。 ・ 局所の診察を理解することができる。 ・ 臨床検査、臨床心理を理解することができる。 ・ その他治療学、おもな症状の診察法について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	臨床医学総論第2版 (医師薬出版)
参考書	診察と手技がみえるvol.1 (メディックメディア)
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 診療の基本-2 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	診察の概要	医学関連用語、診察の順序、カルテ	講義
	2	診察の方法【医療面接・POS】	医療面接	講義
	3	診察の方法（視診・触診・打診・聴診）	視診・触診・打診・聴診	講義
	4	バイタルサイン（体温）	体温	講義
	5	バイタルサイン（脈拍・血圧）	脈拍と血圧	講義
	6	バイタルサイン（呼吸）	呼吸	講義
	7	全身の診察	顔貌	講義
	8	全身の診察	精神状態、言語の特徴	講義
	9	全身の診察	体型、栄養状態	講義
	10	全身の診察	姿勢と体位の特徴	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	全身の診察	歩行の特徴	講義
	14	全身の診察	皮膚、爪の特徴	講義
	15	全身の診察	リンパ節	講義
	16	神経系の診察	感覚検査	講義
	17	神経系の診察		講義
	18	神経系の診察	反射検査法	講義
	19	神経系の診察	脳神経系の検査、髄膜刺激症状	講義
	20	神経系の診察		講義
	21	神経系の診察	その他の検査	講義
	22	運動機能検査	運動麻痺の分類と障害	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	運動機能検査	筋肉の異常、不随意運動、協調運動および起立と歩行	講義
	26	運動機能検査		講義
	27	頭部・顔面の診察	頭部・顔面、眼、鼻	講義
	28	胸部の診察	肺・胸膜、心臓	講義
	29	腹部の診察	腹部の診察	講義
	30	背部・骨盤内臓器の診察	背部・骨盤内臓器	講義
	31	四肢の診察	四肢	講義
	32	その他の診察	救急時、女性、小児、高齢者	講義
	33	臨床検査、臨床心理	臨床検査、臨床心理検査	講義
	34	その他治療学、おもな症状の診察法	その他の治療学、おもな症状の診察法	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 臨床はり学、臨床きゅう学

【科目】 臨床はりきゅう理論

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中田 智之	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	鍼、灸の施術が生体に対しどのように作用するか、なぜ体調や症状の変化が起こるのかを、解剖学・生理学を踏まえて、理解するための理論を学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	鍼灸による生体の反応や作用について理解し、患者さんに説明できるようになるために、解剖学・生理学の知識を基に治効の理論を修得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体表構造(皮膚)について理解することができる。 ・ 体性の調節(運動系の調節)について理解することができる。 ・ 体性感覚(総論、痛覚、温度覚、触覚、圧覚、振動覚)について理解することができる。 ・ 体性感覚(固有感覚、内臓感覚)について理解することができる。 ・ 熱傷(炎症)について理解することができる。 ・ 体表の感覚について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう理論・解剖学・生理学
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	感覚、伝導路など生理学の教科書を予習しておくこと。授業後は復習をして、疑問を先送りしないようにすること。
履修にあたっての留意点	鍼灸治療を行うために必要な知識なので、図や表にまとめるなど、自分にとってわかりやすい形にまとめること。

【授業計画】 臨床はりきゅう理論 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	体表構造(皮膚)	皮膚の構造(解剖学 26p~31p)	講義
	26	生体の調節(運動系の調節)	はり灸理論 第8章(47~54p)	講義
	27			講義
	28	生体の調節(内臓系の調節)	はり灸理論 第8章(54~63p)	講義
	29	体性感覚(初めに、総論)	はり灸理論 第8章(63~69p)	講義
	30	体性感覚(痛覚)	はり灸理論 第8章(69~76p)	講義
	31	体性感覚(温度覚、触覚、圧覚、振動覚)	はり灸理論 第8章(76~82p)	講義
	32	体性感覚(固有感覚、内臓感覚)	はり灸理論 第8章(76~82p)	講義
	33	熱傷(炎症)	はり灸理論 第8章(83~87p)	講義
	34	体表の反応	はり灸理論 第8章(88~94p)	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学の応用－1

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	二神 幸一	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期 3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	<p>1年次に学習した気・血・津液・精および陰陽の失調による病態と、臓腑の生理作用・生理特性を総合し、臓腑病証による弁証を理解する。また、診断法である四診法を理解し、望診・問診・切診から得られる情報を基に証を推察できるようにする。</p> <p>はき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。1年次には取穴に必要な経絡経穴の種類や名前、部位を学んだが、ここでは、さらに確実に取穴をするために人体の骨、筋肉、神経、血管などの場所を正確に覚える。また、特によく使われる要穴や奇穴を名前や部位を覚え、臨床に必要な経絡経穴の知識を学んでいく。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>東洋医学による診断、治療ができるようになるために、東洋医学における人体の構造機能の基礎知識の概要を理解する。</p> <p>人体各部の経穴を教科書に記載された通りに取穴するために、筋、神経、血管の場所を理解し、実際取穴法を修得する。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上肢、下肢の経穴の部位を理解することができる。 ・ 五臓、六腑の病証を理解することができる。 ・ 奇恒の腑の病証と関連する五臓を理解することができる。 ・ 臓腑病証まとめを理解することができる。 ・ 望診、問診、切診について理解することができる。 ・ 胸腹部、背部、頭頸部、顔面部の経穴の部位を理解することができる。 ・ 要穴、奇穴、八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈を理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版東洋医学概論 新版経絡経穴概論
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	難解な漢字や言葉の意味などがある場合が多いので漢字辞書などを用意すると良い。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学の応用－1 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	はじめに 前腕の陰経・陽経の経穴の部位	前腕の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	2	肝の病証	肝の生理と病証	講義
	3	心の病証	心の生理と病証	講義
	4	脾の病証	脾の生理と病証	講義
	5	肺の病証	肺の生理と病証	講義
	6	腎の病証	腎の生理と病証	講義
	7	六腑の病証/奇恒の腑の病証と関連する五臓	六腑・奇恒の腑の生理と病証	講義
	8	臓腑病証まとめ	各臓腑の病証	講義
	9	望診	望診の概略と内容	講義
	10	望診		講義
	11	試験		試験
	12	試験解説 問診	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	下腿の陰経・陽経の経穴の部位	下腿部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	14	問診・問診	問診の概略	講義
	15	問診	問診の概略と内容	講義
	16	問診		講義
	17	問診		講義
	18	切診	脈診の概略と内容	講義
	19	切診	腹診の概略と内容	講義
	20	切診		講義
	21	上腕・肩周囲の経穴の部位	上腕部・下肢部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	22	大腿陰経・陽経の取穴法	大腿部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説 上肢・下肢の経穴部位のまとめ	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	胸腹部の取穴法	胸腹部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	26	背部の取穴法		講義
	27	腰部の取穴法	腰部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	28	頭頸部の取穴法	頭頸部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	29		顔面部の経穴の位置と解剖学的理解	講義
	30	要穴の説明	要穴	講義
	31			講義
	32	奇穴(含:新穴)・組合せ穴	奇穴・新穴の部位と主治	講義
	33			講義
	34	八会穴・八脈交会穴・四総穴・奇経八脈	特殊な経穴群	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 臨床はり学、臨床きゆう学

【科目】 東洋医学臨床論 I

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	伊藤 真悟	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1学期 2学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考え方に基づく病態把握・治療方針・具体的な治療方法を習得する。学習した知識を統合してSOAPに対応できるようにする。
授業の一般目標 (GIO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、患者の愁訴から証立てを行うために、各症候の東洋医学的な病態を学習する。 2. 経絡経穴概論で学習した経絡の流注、経穴の特徴を応用し選穴・配穴を行うために、各病証・証立てに応じた配穴を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋医学と東洋医学的な考え方の違いを理解することができる。 ・腰下肢痛について理解することができる。 ・頸肩腕痛、肩関節痛について理解することができる。 ・肩こり、上肢痛について理解することができる。 ・膝関節痛について理解することができる。 ・上肢と下肢のスポーツ障害について理解することができる。 ・運動麻痺について理解することができる。 ・頭痛、顔面痛について理解することができる。 ・胸痛、腹痛について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論<はりきゆう編> 東洋医学臨床論<あん摩マッサージ指圧編>
参考書	リハビリテーション医学・臨床医学総論・臨床医学各論・新版 経絡経穴概論 配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	実技で学ぶ徒手検査を見直すこと。授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	徒手検査は、機序まで説明できるように復習すること。 スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学臨床論 I 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	総論・導入（治療の流れ）	西洋医学と東洋医学的な考え方の違い、SOAP形式	講義
	2	総論・導入（痛み）：関節痛	疼痛の定義・分類、痺証、膠原病	講義
	3	腰痛	脊髄症、神経根症、馬尾症状	講義
	4	腰下肢痛	腰椎椎間板ヘルニア、椎間関節症、脊柱管狭窄症、脊椎分離・すべり症、股関節疾患、腰下肢痛の徒手検査法	講義
	5	腰下肢痛／歩行異常	腰下肢痛、歩行異常（運動麻痺）	講義
	6	下肢痛	絞扼性神経障害、スポーツ障害	講義
	7	頸肩腕痛	頸椎症、胸郭出口症候群の徒手検査法	講義
	8	頸肩腕痛	頸肩腕痛の現代医学的、東洋医学的治療計画	講義
	9	肩関節痛	肩関節の徒手検査法	講義
	10	肩関節痛	いわゆる五十肩の治療、現代医学的、東洋医学的治療	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	肩こり	肩こり、肩甲骨周りの筋と経穴	講義
	14	上肢痛	末梢神経障害の徒手検査法	講義
	15	上肢痛	スポーツ障害、腱鞘炎	講義
	16	膝痛	膝関節疾患の徒手検査法	講義
	17	膝痛	変形性膝関節症、膝痛の現代医学的、東洋医学的治療	講義
	18	頭痛	緊張性頭痛、血管性頭痛、後頭神経痛	講義
	19	頭痛	現代医学的、東洋医学的治療	講義
	20	顔面痛	三叉神経痛、持続性特発性顔面痛	講義
	21	胸痛	肋間神経痛、気胸、狭心症	講義
	22	腹痛	適不適の鑑別	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 臨床はり学、臨床きゆう学

【科目】 東洋医学臨床論Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中田 智之	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期 2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考え方に基づく病態把握・治療方針・具体的な治療方法を習得する。
授業の一般目標 (G10)	<ol style="list-style-type: none"> 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、患者の愁訴から証立てを行うために、各症候の東洋医学的な病態を学習する。 経絡経穴概論で学習した経絡の流注、経穴の特徴を応用し選穴・配穴を行うために、各病証・証立てに応じた配穴を学習する。
到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ・眼精疲労について理解することができる。 ・顔面麻痺について理解することができる。 ・めまい、耳鳴り、難聴について理解することができる。 ・脱毛症について理解することができる。 ・鼻閉・鼻汁、咳嗽について理解することができる。 ・呼吸困難、動悸、息切れについて理解することができる。 ・悪心・嘔吐、歯痛、口渇について理解することができる。 ・食欲不振、やせ、肥満について理解することができる。 ・浮腫について理解することができる。 ・便通異常について理解することができる。 ・排尿異常、EDについて理解することができる。 ・月経異常、婦人科疾患について理解することができる。 ・小児特有の症候について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論・臨床医学総論・経絡経穴概論・東洋医学概論
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	おもに復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	東洋医学的に考える場合、五行の色体表、要穴表に出ている経穴の取穴部位を書けるようにすること。

【授業計画】 東洋医学臨床論Ⅱ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	導入・各論(眼精疲労)	眼精疲労	講義
	2	顔面麻痺	中枢性、末梢性麻痺の鑑別	講義
	3	めまい	適不適の鑑別、メニエール病 良性頭位めまい症	講義
	4	耳鳴り・難聴	めまいとの関連	講義
	5	脱毛症	円形脱毛症	講義
	6	鼻閉・鼻汁／咳嗽・喀痰	アレルギー、感冒、咳嗽のタイプ	講義
	7	呼吸困難・動悸・息切れ	呼吸器疾患、不整脈、貧血	講義
	8	歯痛／口渇	歯痛、顎関節症	講義
	9	食欲不振・やせ	食欲不振、やせ	講義
	10	肥満	肥満	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	浮腫	浮腫	講義
	14	悪心・嘔吐	鑑別が必要な疾患	講義
	15	便秘異常	便秘、下痢、交代性便秘異常	講義
	16	便秘異常	機能的便秘異常	講義
	17	排尿異常	排尿困難、尿失禁	講義
	18	ED(勃起障害)	EDの機序	講義
	19	女性特有の生理的特徴／月経異常	女性の性周期、機能的月経異常	講義
	20	不妊症／性器出血・帯下／出血傾向	不妊症、帯下、出血傾向	講義
	21	つわり／骨盤位(逆子)／乳汁分泌不全	つわり、骨盤位、乳汁分泌不全	講義
	22	小児特有の症候(疳の虫・夜尿症・小児気管支喘息)	小児の症状	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【科目】 診療の組み立て

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	伊藤 真悟	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	人体の機能を理解し、鍼灸治療の適・不適の判断の基準となる検査の機序を学習する。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の運動の仕組みおよび正常な可動範囲を学習する。 ・他覚的所見を収集することの意義と、各種検査の機序を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・関節と運動の力学・姿勢とその異常・平衡反応・連合運動と共同運動・随意運動について理解することができる。 ・脊柱・体幹の機能について理解することができる。 ・上肢帯・上肢の機能について理解することができる。 ・下肢帯・下肢の機能について理解することができる。 ・正常歩行と異常歩行について理解することができる。 ・関節可動域テストについて理解することができる。 ・筋力テストについて理解することができる。 ・頸部・胸部・上肢の徒手検査について理解することができる。 ・腰部・下肢の徒手検査について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	リハビリテーション医学・臨床医学総論・解剖学・生理学
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと
履修にあたっての留意点	1年次に学習したMMT、ROMの復習をする。授業後の復習をしっかりと行うこと。

【授業計画】 診療の組み立て 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期				
2期				
3期	1	関節と運動の力学・姿勢とその異常・ 平衡反応・連合運動と共同運動・随意運動	関節運動とてこの原理、姿勢と重心の 関連、姿勢反射、平衡反応	講義
	2			講義
	3	脊柱・体幹の機能	脊柱の動きと筋の作用、胸郭と呼吸の 運動	講義
	4	上肢帯の機能	肩甲骨と肩関節の動き	講義
	5	上肢の機能	肘関節、手関節、手部の運動	講義
	6	下肢帯・下肢の機能	骨盤と股関節の関連、膝関節、足関 節、足部の運動	講義
	7	正常歩行と異常歩行	正常歩行のサイクル、歩行と重心	講義
	8	関節可動域テスト	おもな関節の可動域、関節可動域測定 上の注意	講義
	9	筋力テスト	MMT、主な関節運動の測定方法	講義
	10			講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう臨床実技 I

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	上利 文子	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	医療面接（患者接遇などを含む）の必要性や技法などについて理解するとともに、対人練習を行う事で、円滑な医療面接が行えるよう学習をする。臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患（肩こり、頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛）に対して、理解を深め、診察から施術までの一連の内容を学習する。 施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身につく。 医療面接について理解し、適切に行えることを目的とする。 臨床でよく遭遇する肩こり・頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した常用穴に適切に鍼灸施術を行うことができる事を目的とする。
授業の到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> 血圧、脈拍を正しく測定し、記録することができる。 頸肩腕痛、腰下肢痛を呈する疾患の病態（原因・分類など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断し、説明することができる。 頸肩腕痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 頸肩腕痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践することができ、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に頸肩腕痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 腰下肢痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 腰下肢痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践することができ、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に腰下肢痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 モデル患者の左右失眠穴に、2分間で半米粒大の透熱灸を左右交互に10壮以上施灸することができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	学校配布の冊子
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	授業中に学習した取穴や解剖学的部分などを復習をしておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技 I 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	1. 授業ガイダンス、POS、POMR、SOAPについて説明 2. 医療面接、診療録の記載など説明	POS、POMR、SOAP、診療録 医療面接法	講義 実技
	2			
	3	2. 医療面接の演習 模擬患者医療面接1	医療面接、診療録	実技
	4			
	5	2. 医療面接の演習 模擬患者医療面接2		実技
	6			
	7	3. 腰下肢痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解		実技
	8			
	9	3. 腰下肢痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習	腰痛・腰下肢痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・常用穴	実技
	10			
	11	3. 腰下肢痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習		実技
	12			
	13	3. 腰下肢痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 常用穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習		実技
	14			
	15	3. 腰下肢痛⑤ ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う	ロールプレイ形式	実技
	16			
	17	4. 頸肩腕痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解		実技
	18			
	19	4. 頸肩腕痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習	肩こり・頸肩腕痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・常用穴	実技
	20			
	21	4. 頸肩腕痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		実技
	22			
	23	4. 頸肩腕痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、失眠施灸練習		実技
	24			
	25	4. 頸肩腕痛⑤ ロールプレイ形式にて、模擬患者施術を行う	ロールプレイ形式	実技
	26			
	27	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習① 徒手検査、取穴、刺鍼、施灸		実技
	28			
	29	前期実技試験① 医療面接、徒手検査法、血圧測定前期試験	医療面接・徒手検査法・血圧測定	実技
	30			
	31	前期実技試験② 施鍼、施灸	施鍼・施灸	実技
	32			
	33	試験後フィードバック		実技
	34			
	35	頸肩腕痛、腰下肢痛について、全体復習・確認		実技
	36			

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう臨床実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	上利 文子	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	後期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患のうち、肩関節痛、膝関節痛に対して診察から施術までの一連の内容を学習する。 また、臨床実習前試験の為に授業として、これまで学んだ4疾患に対してロールプレイ実習を含めた臨床実践的な内容を行う。 東洋医学的な治療を行える能力を養うことも目的に、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習を行う。 施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。 臨床でよく遭遇する肩関節痛・膝関節痛の病態を理解するとともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴に適切に鍼灸施術を行うことができる事を目的とする。 また、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習することで感覚を養う。
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 肩関節痛、膝関節痛を呈する疾患の病態（原因・分類など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断し、説明することができる。 肩関節痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 肩関節痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践し、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に肩関節痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 膝関節痛のモデル患者に対して適切に医療面接（患者誘導・挨拶を含む）を行い、指診や触診などにより身体所見を取ることができる。 膝関節痛のモデル患者に対して代表的な徒手検査を実践し、陽性所見と臨床的意義を説明することができる。 モデル患者に対し、7分以内に膝関節痛の基本的な治療穴を2か所取穴し、50mm18号鍼および40mm16号を用いて直刺（90°）および斜刺（45°）にて10mmの刺入を行うことができる。 モデル患者の指定された部位（頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛に対する治療穴のうち1穴）を取穴し、2分間で半米粒大の八分灸を6壮以上施灸することができる。 東洋医学の診察（四診法）のうち、特に舌診、腹診、脈診の基本を理解し、概説することができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	学校配布の冊子
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業中における態度、実技習得度 2) 期末試験（臨床実習前試験） 期末試験により習得度を確認する。
成績評価方法	学期末試験は、3年次に行う臨床実習Ⅲ・Ⅳの「臨床実習前試験」を兼ねるため、前期のはりきゅう臨床実技Ⅰの履修内容も含めた総合評価を実施する。
授業時間外必要な学修	授業中に学習した内容を復習しておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技Ⅱ 2023年度 鍼灸科 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態				
後期	1	5. 肩関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸	肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技				
	2							
	3	5. 肩関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習		肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技			
	4							
	5	5. 肩関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習			肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技		
	6							
	7	5. 肩関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習				肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	講義 実技	
	8							
	9	5. 肩関節痛 ロールプレイ 医療面接・徒手検査法にて病態の推定まで					肩関節痛 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	10							
	11	6. 膝関節痛① 病態の理解（分類、原因、機能解剖など）、診察の流れの全体理解、施鍼、施灸	膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴					実技
	12							
	13	6. 膝関節痛② 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習		膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴				実技
	14							
	15	6. 膝関節痛③ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習			膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴			実技
	16							
	17	6. 膝関節痛④ 医療面接、身体診察（徒手検査） 基本穴の取穴、刺鍼、施灸、血圧測定、 失眠施灸練習				膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴		実技
	18							
	19	6. 膝関節痛 ロールプレイ 医療面接・徒手検査法にて病態の推定まで					膝関節痛について 医療面接鑑別 徒手検査法 ランドマーク・基本穴	実技
	20							
	21	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習① 医療面接、徒手検査、 取穴、刺鍼、施灸	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習① 医療面接、徒手検査、 取穴、刺鍼、施灸					実技
	22							
	23	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習② 医療面接、徒手検査、 取穴、刺鍼、施灸		頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習② 医療面接、徒手検査、 取穴、刺鍼、施灸				実技
	24							
	25	頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習③ 医療面接、徒手検査、 取穴、刺鍼、施灸			頸肩腕痛、腰下肢痛、肩関節痛、膝関節痛について、全体復習③ 医療面接、徒手検査、 取穴、刺鍼、施灸			実技
	26							
	27	後期実技試験①（臨床実習前試験を兼ねる） 医療面接、身体診察、病態の推定				指示された課題【本専共通】 医療面接、身体診察、病態の推定		実技
	28							
	29	後期実技試験②（臨床実習前試験を兼ねる） 施鍼、施灸					指示された課題【本専共通】 施鍼、施灸	実技
	30							
	31	試験後フィードバック 7. 東洋医学的な鍼灸治療① 東洋医学的証立て a. 脈診 b. 要穴取穴（上肢・下肢）	脈診、腹診、舌診、脈・腹、舌の変化、 上肢の要穴					実技
	32							
	33	7. 東洋医学的な鍼灸治療② 東洋医学的証立て a. 舌診・腹診 b. 要穴取穴（腹・背）		脈診、腹診、舌診、脈・腹、舌の変化、 腹・背の要穴				実技
	34							
	35	7. 東洋医学的な鍼灸治療③ 東洋医学的証立て a. 四診合参 b. 東洋医学的臨床の実際			脈診、腹診、舌診、脈・腹、舌の変化、 腹・背の要穴			実技
	36							
						ロールプレイ形式		実技

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう臨床実技Ⅲ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	林 健太郎	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義・実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療面接（患者接遇などを含む）の必要性や技法などについて理解するとともに、対人練習を行う事で、円滑な医療面接が行えるよう学習をする。 ・臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患（頸肩腕痛、肩関節痛、腰痛、下肢痛、膝関節痛）に対して、理解を深め、診察から施術までの一連の内容を学習する。 ・施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・はりきゅう臨床実技Ⅰ・Ⅱで学ぶ基本的な内容について、より理解を深め、臨床力の向上を図る。 ・スムーズな一連の鍼灸施術を行うことができる。
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・頸肩腕痛、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛について、模擬患者施術を行うために以下の事ができる ・鑑別診断するために必要な情報を適切に聴取できる。 ・適切な身体診察法ができる。 ・診察内容から、適切な治療計画（治療方針・処方例）を立て説明できる。 ・治療を実施できる。 ・POSに基づいて診療録の作成ができる。 ・鍼灸臨床に関係する筋肉に対する低周波通電療法ができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	授業中に学習した内容を復習しておくこと。
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう臨床実技Ⅲ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	授業ガイダンス、現代医学的鍼灸治療の概要		実技
	2	頸肩腕痛に対する鍼灸治療 ①		実技
	3	頸肩腕痛に対する鍼灸治療 ②		実技
	4	頸肩腕痛に対する鍼灸治療 ③		実技
	5	頸肩腕痛に対する鍼灸治療 ④		実技
	6	腰下肢痛に対する鍼灸治療 ①		実技
	7	腰下肢痛に対する鍼灸治療 ②		実技
	8	腰下肢痛に対する鍼灸治療 ③		実技
	9	肩関節痛に対する鍼灸治療 ①		実技
	10	肩関節痛に対する鍼灸治療 ②		実技
	11	肩関節痛に対する鍼灸治療 ③		実技
	12	膝関節痛に対する鍼灸治療 ①		実技
	13	膝関節痛に対する鍼灸治療 ②		実技
	14	前期復習		実技
	15	前期試験		実技
	16	前期試験		試験
	17	試験のフィードバック		試験
	18	前期まとめ		実技
後期	19	低周波通電療法の概要と実際	前脛骨筋、長趾伸筋	実技
	20	低周波通電療法の実際	長・短腓骨筋	実技
	21	低周波通電療法の実際	後脛骨筋、長趾屈筋	実技
	22	低周波通電療法の実際	腓腹筋内側頭・外側頭、ヒラメ筋	実技
	23	低周波通電療法の実際	内側広筋、外側広筋、大腿直筋	実技
	24	低周波通電療法の実際	半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋	実技
	25	低周波通電療法の実際	大殿筋、中殿筋、大腿筋膜張筋	実技
	26	低周波通電療法の実際	多裂筋、腰方形筋	実技
	27	低周波通電療法の実際	棘上筋、棘下筋	実技
	28	低周波通電療法の実際	僧帽筋、肩甲挙筋頭半棘筋、頭板状筋	実技
	29	低周波通電療法の実際	三角筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋	実技
	30	低周波通電療法の実際	総指伸筋、長橈側手根伸筋	実技
	31	低周波通電療法の実際	腕橈骨筋、円回内筋	実技
	32	後期試験		試験
	33	後期試験		試験
	34	試験のフィードバック		実技
	35	後期まとめ		実技
	36	まとめ		実技

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	臨床実習Ⅱでは臨床実践を通して、あはき治療以外の施術所業務などを学習するとともに、診察技能の習得、レベルの向上を図ることを目的とする。前期は医療面接を後期には医療面接・身体診察内容から病態の推定・治療方針・選穴を考える。また、臨地実習にて、学外施術所における施術見学および業務体験を行う。また、医療施設、スポーツ、介護施設等の臨床現場を見学する事で、医療人として幅広い視野を育てるとともに、はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会を与える。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。 ・ 病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解させる。 ・ SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 ・ 学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>成績評価の基準と算定方法（評価割合） 総合的に判断して60点以上（100点満点中）を合格点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率 2. 課題レポート（実習記録、デイリーノート、振り返りノートの評価） 3. 実習中の態度・取り組む姿勢など（実習指導者による評価）
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内：課題レポート（実習記録）による評価 ・ 学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実Ⅱ 2023年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
	1	業務基礎実習	施術所の業務について理解できる	講義 実習
	2 3	施術所業務実習	・ 附属施術所での一般業務について円滑に行う事ができる	
	4	学外実習2 ガイダンス	学外実習について必要な事を理解する事ができる	実習
	5 6 7 8 9	学外臨地実習2-1 治療院での業務実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間に厳守で行動することができた ・ 臨床実習指導者と適切にコミュニケーションをはかり、指示通りに行動することができた ・ 一般のあはき治療院で一般業務について理解し行う事ができる 	実習
	10 11	学外臨地実習2-2 医療機関などでの見学実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関などで、あはき師が行う業務内容を理解する事が出来る。 ・ 指導者の指示に従い、行動することができる 	実習
	12 13	学外臨地実習2-3 医療機関などでの見学実習		実習
	14 15	臨床実習1-1：教員主導型での実践実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切に医療面接を行う事ができる ・ 適切に身体所見をとる事ができる 	実習
	16 17	臨床実習1-2：教員主導型での実践実習		実習
	18 19	臨床実習1-3：教員主導型での実践実習		実習
	20 21	臨床実習2-1：学生主体型での実践実習 医療面接、身体診察、病態把握の推定を主に行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切に医療面接を行う事ができる ・ 適切に身体所見をとる事ができる ・ 病態を推定し、治療方針を考えることができる 	実習
	22 23	臨床実習2-2：学生主体型での実践実習 医療面接、身体診察、病態把握の推定を主に行う		実習
	24 25	臨床実習2-3：学生主体型での実践実習 医療面接、身体診察、病態把握の推定を主に行う		実習
	26 27	臨床実習2-4：医療面接、身体診察、病態把握、治療方針の決定を主に行う、学生主体型実習		実習
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野

【科目】 研究基礎

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	萱間 洋平	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	研究の意義と研究の基礎知識を学び、論文抄読発表を通じ研究プロセスの一部を体験する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の意義について理解し、その考え方を日常生活レベルで実践できるようにする。 ・ 鍼灸に関する研究の論文検索を通じて、情報処理能力を身につける。 ・ 鍼灸臨床上経験しやすい疾患、症状に関する臨床研究の現状と課題について理解する。 ・ エビデンスレベルについて理解し鍼灸のエビデンスに関する考察を自分なりに述べる事ができる。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本授業の目的・メリットについて理解し、研究の考え方を日常生活に落とし込むことができる。 ・ 医学研究の種類と方法について理解することができる。 ・ エビデンスレベルについて理解することができる。 ・ 各種領域における鍼灸臨床研究の現状と課題について理解することができる。 ・ 本授業の目的・メリットに基づき、講義・演習内容を建設的に批判することができる。

【担当教員から】

教科書	講師作成資料
参考書	適宜提示する。
成績評価基準	演習における態度、成果、提出物により評価する。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	研究マインドを日々の生活の中で実践する。
履修にあたっての留意点	特記なし

【分野】 専門分野

【科目】 災害と鍼灸・開業支援

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	藤田洋輔、他	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高校および大学卒業者は学生時代での様々な経験（部活動、アルバイト、ボランティア活動など）を通じた経験、社会人経験者は社会人経験も踏まえ、キャリアシート等を用いて自己理解を図り、現時点における将来像を考える。 ・鍼灸師の将来展望について、多様な職域（療養費含）を解説する。 ・開業希望者、就職希望者に関わらず、施術所経営の上で知るべき知見を解説する。 ・災害の実際と災害時における鍼灸師の役割について解説する。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の経験について振り返り（人生の棚卸し）、自己理解を行うことができる。 ・多様な鍼灸師の職域（療養費含む）を理解する。 ・他職種連携の上で医療者、鍼灸師としての災害ボランティア活動内容を理解する。 ・自己理解および多様な鍼灸の職域を知り、現時点での将来像を未来履歴書として具体化できる。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアシートを作成し、自己理解に繋げる。 ・多様な鍼灸師の職域を知り、自身の将来展望を図ることができる。 ・施術所における経理経営などの運営、開業に必要な知識の理解ができる。 ・はり、きゅうの施術における療養費（保険）制度の概要と、その運用について理解し概説できる。 ・災害医療現場における鍼灸師の活動内容を理解し、概説できる。 ・自己将来像についてディスカッションを行い、自身の視野を広げる事ができる。

【担当教員から】

教科書	なし
参考書	はじめての鍼灸マッサージ治療院開業ベーシックマニュアル（医道の日本社） 多職種連携で支える災害医療（医学書院）
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、 提出レポートにて評価し、平常点（態度、積極的な参加状況等）も加味する。
成績評価方法	学業成績の評価は、レポートの評価および履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 災害と鍼灸・開業支援 2023 年度 鍼灸科夜間特修コース

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	キャリアガイダンス	キャリアシート、自己理解	講義・演習
	2	地域医療領域：スポーツ	多様な鍼灸師の職域 自身の将来展望	講義
	3	緩和領域		講義
	4	地域医療領域：地域		講義
	5	地域医療領域：分院長経験		講義
	6	開業等1		施術所における経理経営などの運営
	7	開業等2	講義	
	8	療養費	はり、きゅうの施術における療養費（保険）制度	講義
	9	地域医療連携の実際	地域医療における鍼灸師の役割	講義
	10	災害支援の実際	災害医療現場における鍼灸師の活動内容	講義
	11	災害		
	12	キャリアガイダンス	キャリアシート、自己理解	講義・演習
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			